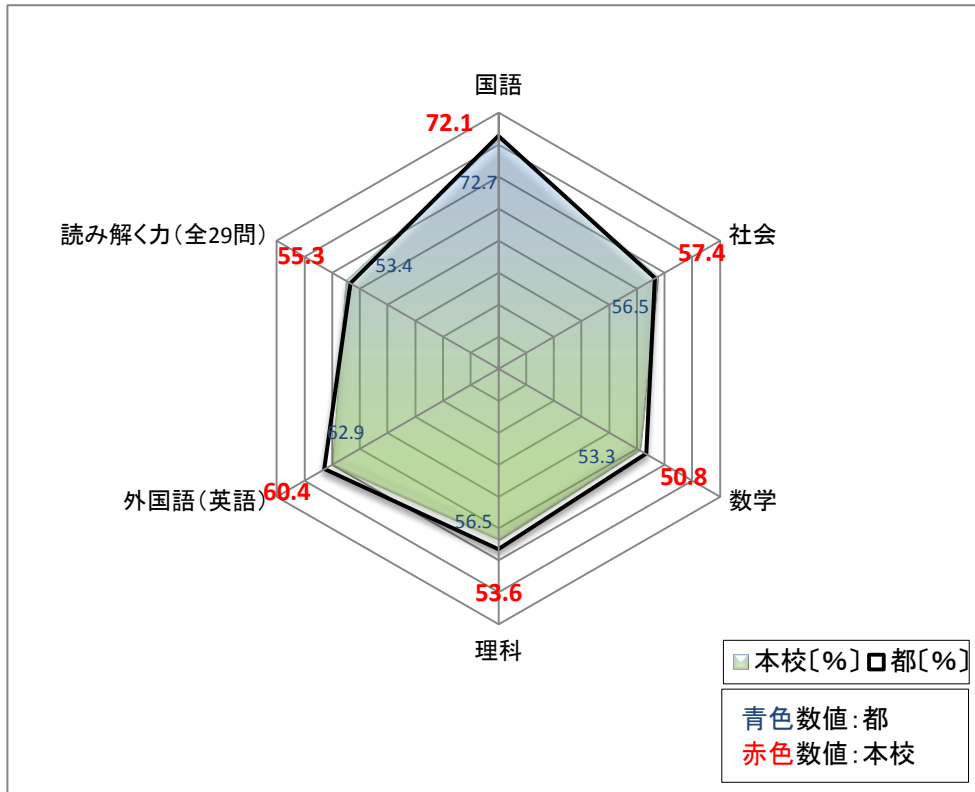


平成29年度児童・生徒の学力向上を図るための調査結果による「確かな学力向上推進プラン」策定のための課題分析表（中学校）

篠崎中学校

《学力調査結果チャート》※本校と都の平均正答率の比較



《現状把握》

規範意識が高く、どの学年も落ち着いた学校を送っている。探究心や向上心に満ちあふれているわけではないが、授業には集中して学習する生徒ばかりである。

また、常日頃からの家庭学習習慣の定着度は低いものの、定期考査が近くなれば家庭で学習する時間をしっかり確保して、成果を上げている生徒は多い。

《授業改善のポイント》(推進プランは別紙)

主要5教科のうち、国、英、数、理が都平均を下回る結果となった。授業時間の一部を復習に充てる、定期考査前に学習のまとめの時間を作るなど、記憶の定着を図る取り組みを行っていききたい。

読み解く力は、都平均を上回るものの、依然として高いとは言えない数値である。授業において、読解問題を扱う機会を多くし、読み解く力を育てていきたい。

各教科において、グループ学習を行う機会を増やし、生徒同士での学び合いを大切にしていきたい。そのため教師は、グループにおける各生徒の役割を明確化させ、話し合いがスムーズにいくよう働きかけていきたい。

《チャートの特徴》

都平均に比べ、国語は-0.7ポイント、数学は-2.5ポイント、英語は-2.5ポイント、社会は+0.9ポイント、理科は-2.9ポイント、読み解く力は+1.9ポイントという結果になった。チャート全体を見た際、多少バラつきはあるものの、教科による得意、不得意の差はあまりないといえる。また、読み取る力が、都平均に比べ高くなっている。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭とは、引き続き連携を密に取りながら、生徒への家庭学習の促しをお願いしていきたい。

地域の方々には、学校公開や行事を通じて、学校の「見える化」を図り、貴重なご意見をうかがうことで、授業改善を図っていき